

若年子宮体がん妊孕性温存治療についての調査研究に対するご協力のお願い

研究代表者 所属 久留米大学産婦人科 職名 教授

氏名 牛嶋 公生

当院研究担当者 産婦人科 氏名 本田 裕

このたび、下記の医学系研究を、日本産科婦人科学会倫理委員会臨床研究審査小委員会および日本産科婦人科学会理事長の許可のもと、倫理指針を遵守して実施しますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また、患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨、診療を受けた施設までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

西暦 2009 年 1 月 1 日より 2013 年 12 月 31 日までの間に、子宮体がんに対し妊孕性温存を目的とした初回治療を受けた方

2 研究課題名

研究課題名 若年子宮体がん妊孕性温存治療についての調査研究

3 研究実施期間

久留米大学産婦人科および全国の日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録施設

4 本研究の意義、目的、方法

子宮体がんの標準治療は手術による子宮摘出ですが、妊娠を強く望む女性で子宮内膜に限局していると思われる高分化類内膜腺癌、および子宮内膜異型増殖症（類内膜上皮内腫瘍）においては、子宮を切除せず黄体ホルモンによる子宮温存治療が行われる場合があります。しかしながら、本邦における若年子宮体がんの子宮（妊孕性）温存治療の実態についての詳細は不明です。本研究では、久留米大学産婦人科を研究事務局として、日本産科婦人科学会の婦人科腫瘍登録を行っている施設を対象に診療内容を調査し、治療の効果やその後の管理の方法、温存治療の本来の目的である、その後の妊娠についてなど多くの情報を集めます。

全国規模のかつてない多数例の情報の集積により、治療適応の拡大の可能性を探ると同時に、安易な温存治療がなされていないかどうかを検証し、治療の質の担保と安全な普及についての提言を行うことを目的としています。本研究の成果は学会発表や論文として公開されますし、参加施設および日本産科婦人科学会のホームページでも見ることができます。

5 協力をお願いする内容

参加施設で若年子宮体がん妊孕性温存治療を受けられた患者さんの臨床データを集めます。特に新たに患者さんにご提供いただくものはありません。

6 本研究の実施期間

研究実施許可日から 2019 年 3 月 31 日

7 プライバシーの保護について

本研究で取り扱う患者さんの情報は個人情報をすべて削除し、第3者にはどなたのものか一切わからない形で参加施設から提供され、使用されます。患者さんの医療情報と個人情報が連結されることはありません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は下記へご連絡ください。

また、本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委託を受けた方など）より、【情報の利用や他の研究機関への提供】の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合は、下記当院研究担当者へのご連絡をお願いいたします。

研究代表者 久留米大学産婦人科 教授 牛嶋 公生

TEL:0942-31-7573 FAX:0942-35-0238

Email:kimi@med.kurume-u.ac.jp

日本産科婦人科学会事務局

TEL:03-5524-6900 FAX:03-5524-6911

Email:nissanfu@jsog.or.jp

当院研究担当者 産婦人科 本田 裕

TEL:082-815-5211 (代表) FAX:082-814-1791